

ダブルスタンダード

令和6年2月10日

黒田インターナショナルコンサルティング

黒田 毅

グローバル基準における物価は、現地基準における物価とともに、ダブルスタンダードを形成する。

これらはグローバル基準における現実の標準化が存在し、他方において、現地基準における現実が存在することを意味する。

これらは企業においても全く等しいのである。これらは経済と社会生活におけるダブルスタンダードが存在するのである。

これらは、グローバル化という洗礼が存在し、これらにおける現実の統一と標準化が存在する。

他方においては、現地における独自社会と生活、経済という現実が存在することにおいて、これらダブルスタンダードが存在するのである。

これら相違する2つの現実同居し、未来という新しい現実における振り分けと判断を自己に与える。

これら相違する現実、ダブルスタンダードを形成し、異なる現実を与えるものである。しかし世界という現実を否定することは不可能であり、これらグローバル基準における自己形成は唯一未来を求める正しい選択である。

これらは新しい技術、生活、進歩は必ずグローバル基準における洗礼を経て、自己を要求されるものであり、これらが進歩性や優秀性を自己に有するために、これら基準における自己考査は正しい現実を自己に要求できる選択なのである。

これら時代先端性における自己は未来という選択を有するものである。現実への迎合でない、自己は選択における未来を有するのである。

これら挑戦は、未来という現実への振り分けかもしれない。